

巻 頭 言

発足以来6周年、言語文化研究所は名実ともに研究と教育の機関として、再出発することになりました。創設以来5年間、研究部・研修部・日本語研修課程の三つの部を擁し、事業を推進してきましたが、このうち日本語研修課程は本年3月をもって発展的に解消し、新たに留学生別科をスタートすることになりました。開設以来、日本語研修課程に携わった多くの方々の労苦と情熱に深甚なる謝意を表します。

世界各国の人々がわが国を訪れ、また学術研究・留学など海外へ渡航する日本人が激増し、国際交流が日常化した状況にあります。このような時代の中で、言語文化研究所の果たす役割には大きいものがあります。従来国際交流は経済・科学技術の獲得という物質的な交流が主流でしたが、これからは言語と文化という、より精神的な交流が求められています。新しく出発する言語文化研究所は、言語と文化の研究と教育を充実発展させながら、国際社会に寄与する国際的視野に立った人材の育成につとめていきたいと思えます。今後、越谷・湘南の両キャンパスの学生・教職員に呼びかけて交流を深め、さらに国内外の研究所と協力関係を密接にしながら、言語文化研究所の一層の発展をはかっていきたいと考えています。今までにも増した御協力をお願いいたします。

今回の「紀要」は、創設以来5年間の言語文化研究所の歴史をふり返るとともに新しい出発を期した6周年特別記念号として、従来にはない多くの論考を収録することができました。執筆された各位にお礼申し上げるとともに、今後とも各方面からのご理解とご批正、ならびにご支援をお願いする次第です。

1993年6月

言語文化研究所

所長 謡 口 明